



団地管理組合法人加古川グリーンシティ  
 管理組合広報委員会  
 グリーンシティ自治会  
 管理事務所 ☎425-6852  
 ホームページ <http://www.greencity.gr.jp/>  
 メールアドレス [kanrikumiai@greencity.gr.jp](mailto:kanrikumiai@greencity.gr.jp)



## 第30期管理組合通常総会のお知らせ



11月15日(土)午後7時から集会所ホールにて、団地管理組合法人加古川グリーンシティ第29期通常総会が会場出席38名、議決権行使による委任状出席454名、合計492名の組合員出席のもと開催され、すべての提案議案が承認・可決されました。また、総会終了後に引き続いて第30期の第1回理事会が開催され、以下の体制が決定しました。

### 第30期 理事役員

理事長	○	○○○○	○○	○○	氏
副理事長	○	○○○○	○○	○○	氏
副理事長	○	○○○○	○○	○○	氏
副理事長	○	○○○○	○○	○○	氏
会計	○	○○○○	○○	○○	氏
書記	○	○○○○	○○	○○	氏

### 自治会

自治会長	○	○○○	○○	○○	氏
------	---	-----	----	----	---

### 監事

監事	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏

### 修繕委員会

委員長	○	○○○	○○	○○	氏
副委員長	○	○○○	○○	○○	氏
委員	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏

### 防災会

防災会会長	○	○○○	○○	○○	氏
幹事長	○	○○○	○○	○○	氏

### 環境整備委員会

委員長	○	○○○	○○	○○	氏
副委員長	○	○○○	○○	○○	氏
委員	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏

### 広報委員会

委員長	○	○○○	○○	○○	氏
副委員長	○	○○○	○○	○○	氏
委員	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
協力委員	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏

### 情報システム委員会

委員長	○	○○○	○○	○○	氏
委員	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏
	○	○○○	○○	○○	氏

今期一年間新たな気持ちで頑張りますので、居住者の皆様のご協力をお願いします。

## 修繕委員会からののお知らせ

第29期管理組合通常総会において来年度の修繕事業計画が承認されました。

1. 外灯のLED化事業  
当マンション共用部の電気代を削減のため、敷地内の外灯をLEDに更新します。
2. マンション外壁の水膨れ補修事業  
外壁保全のため、水膨れ防止対策を行います。
3. 消火栓配管取替え事業  
築30年を経過し長期修繕計画では、消火栓配管更

新時期を迎えておりますが、3年毎の配管耐圧試験を実施しておりますので、その結果次第で対応して行きます。

また、前年度からの継続事業として雑排水立管劣化調査にも取り組んでまいります。  
30期(来年)も上記の内容にて修繕事業を進めて行く予定です。今年同様、ご理解、ご協力をお願いします。

# 今こそやろう減災式

前回に続き、東日本大震災の津波災害で「まず逃げることを日頃から肝に銘じていた人が助かった。そこには「地域や家族の信頼関係」がありました。

今日、防災や防犯にはコミュニティが大切だと声高に唱えられます。しかし、「コミュニティ」これだけでは人の命を救うことはできません。コミュニティとは「居住地域を同じくし、利害をともにする共同体・地域社会」いわゆる一塊のグループです。このグループの中には、悲しいかな先月号でもお伝えしたように「コミュニティ破壊者」も含まれています。コミュニティというグループは、ほんの小さなほころびから簡単に大きく裂け壊れていくのです。その壊れのひとつの要因に**依存症**があります。「私ひとりくらい」とか「うちの家族くらい」さらには「この小さな町くらい」と次第に膨れあがり瞬く間に拡がります。特に、自分に関心の無い物事、一般的に労力を使う活動や責任ある行動から逃げたい時に顕著に表れます。

しかし、その依存症の人達は、災害という緊急事態がひと度発生すると、自身の持つ「**誤った権利**」を主張し始めます。典型的なものとして、災害後の炊き出し風景に現れます。「**炊き出しをする人**」と「**炊き出されたものを食べる人**」です。炊き出しをする人は、普段からコミュニティに参加して、道具の使用法やグループ内の人達の顔や名前を覚えようと努力し、何かあれば助け合うことをしっかりと肝に銘じた人達です。しかし、「**炊き出されたものを食べる人**」は食べることや与えられる権利を行使する人達です。自分の町に何があって、どのように使用するか、周りの人の顔や名前も覚えようともしないし、責任のある物事から逃避した人達なのです。これは少し言い過ぎだとお叱りを受けるかもしれません。「**炊き出されたものを食べる人**」の中には、食べた後に気がつき「何かお手伝いさせてください・私にできることはありませんか」と、炊き出す側へ変化する人達が多くなるのも過去の災害から確認されています。この変化する人達は、日頃からコミュニティに興味を持ちながら遠目に見ていた人達です。コミュニティに参加する意志はあったが、参加するきっかけが無かった人達ともいえるでしょう。でも「**炊き出されたものを食べる人**」の中には、炊き出されたものに文句をつけ、後片付けもせず、ゴミはほったらかし、なのに二度も三度も列に並び、他の人に譲り分け与えることを考えない人達があります。この人達は、災害後の炊き出しだけでは無く、日常生活でもルールやマナーを守らない人達です。日頃からできていないことは災害時にもでき



ないものです。この人達が「**命を守る行動**」をとらない人達です。簡単に言えば、**守るものの定義が全くなされていない人達**なのです。その定義とは、「**自分の大切な人を守る**こと」です。大切な人を守ろうと考える～大切な人が暮らしやすい場所をつくる～その為に町は綺麗に維持したい～そう思うとゴミやタバコのポイ捨てはしない～ゴミ出しマナーやルールを守る～その結果、自宅周辺の清掃活動への参加も大切な行動と意識の連鎖になります。この流れを縁もゆかりも無い、見ず知らずの人のためにやらないといけないと考えるから参加の意欲も起こらず、行動に移せないのです。



「**自分の大切な人を守ることに繋がる**」と考えれば、参加してみようとなるはずですが、そうは行かないようです。何故か? きっかけが無いからです。でも、きっかけは簡単につくることができます。それが「**あいさつ**」です。挨拶をすることで目の前に立ちはだかっていた巨大なハードルは、挨拶をすればするほどに低くなり、あなたはコミュニティの輪の中にしっかりと入りこみます。すると今まで以上に自分の住むまちに興味を持ち、町に愛着を感じ、町を大切にしようと思えます。



自分の大切な人を守る為には、自分の住む町も大切にすることが重要だと考えられるようになり、責任ある行動をとるようになるのです。そうすると、自分ひとりや自分の家族だけの、小さな単位では生き抜くことができないことに気がきます。それが災害というものを認識した瞬間です。今までメディアから感じていたものとは違い、自分のこととして捕らえることができた時! もし自分たちの町でこのようなことが発生すれば、自分の大切な人はどうなるのだろう? 災害直後でも大切な人を残して仕事に向かわなければならないこと、仕事先などで大切な人と離れているときに発生すれば、大切な人は誰が助けてくれるのだろうと考える。それを解決するのがコミュニティの中で最も重要な「**信頼関係**」の構築です。これが昔でいうところの「**お互い様**」なのです。お互い様の精神を身につければ、コミュニティは強靱なものへと変化します。強靱化したコミュニティは「**楽しく住みやすいまち**」をつくることに間違いなく繋がります。



家族の信頼関係は、お互いに「**何があっても生き残る努力をする**こと」が基本です。私は何かあれば「必ず命を守る行動をとる」ということを大切な人と、しっかりと確認し合う。お互いに命を守る行動をとっていると信じ合えば、自分の命を守ることに専念できます。その為に「**命を守る知識**」をしっかりと身につけることが大切です。それらをコミュニティの輪の中でお互いに確認し合う。「**信頼**」これこそが本当の防災活動です。



## 自治会からのお知らせ

### 「ふれあいもちつき大会」のお知らせ

今年も防災会とコラボして「世代間交流事業」「ひょうご安全の日推進事業」の一環として、炊き出し訓練を兼ねた恒例の「ふれあいもちつき大会」を以下のとおり実施します。

**日時: 12月20日(土) 午前11時から**  
**場所: B・C棟間 ファイヤーレーン**



「地域の子どもは地域で育てる」をモットーに、最近めったに体験できない「おもちつき」をグリーンの子ども達に体験してもらいます。また、世代間交流の一環としてグリーンシティのお年寄りから子ども達に「おもちつき」のノウハウを伝授してください。

#### 防災・減災は地域のコミュニティから始まります。

グリーンシティに居住する皆さんのふれあいの場として、たくさんの方々の参加をお待ちしています。

特に「つき手」不足のため若い男性(中高生もOK)の参加と「おもちつき」に詳しいお年寄りの参加を期待しております。

今年もグリーンシティ名物  
**いか焼き**も焼きます。  
 お楽しみに!



### 「ふれあいバスツアー」のご案内

来年の3月14日(土)に「ふれあいバスツアー」を以下のとおり実施します。今回は乳業をテーマに計画しました。(あわじ花さじき→淡路島牧場(昼食)→たこせんべいの里)参加希望の方は管理事務所に申し込んでください。

#### 「ふれあいバスツアー」実施要領

開催日:平成26年3月14日(土)

参加資格:グリーンシティ居住者

小学生以下は保護者同伴

募集人数:35名(先着順)

参加費用:1,500円/人(当日徴収)

申込要領:後日案内を配布します。



## こんなこと知ってましたか?

“知性”は楽しみながら学べば発達するそうです。楽しいことは集中して覚え、忘れないとか・・・好きなことは熱中できて早く上達するとか・・・これは、ほとんどの人が日常経験し、感じていることではないでしょうか!?

子どもにとって、好奇心は快感とセットになっているとも云われています。だから遊びはもちろんのこと、先月号でお話した“絵本の読み語り”の際の絵本も、おもしろいが最優先なんですよね~!!

ではここで、絵本がなくても子どもは育つのに?なぜ、絵本は幼児の成長に必要なんでしょう?絵本が大切だというにはそれなりの理由があるはずですよ?そんな疑問ももちながら改めて考えてみましょう!

ある本好きのお父さんの話ですが、生まれた子どもが1歳頃になった時、“子どもに絵本を読んでやること”を思いつき、ひざに抱き上げたり、布団の上に寝転がって読んだり、と自分自身が喜んでやっていると、子どもの方はわかっているのかいないのか、熱心に見入っていたようです。そして、こんな幼い子が意外に強い興味を、絵本に対して示すことを発見したそうです。日ごろ仕事で忙しいお父さんでしたが、絵本を読む時間というのは、その気持ちさえあれば、だれにでもいくらでも見つかるものです。1冊読むのに、5分~10分もあれば読み終わられるんだし・・・と思って続けていると、そのひとときは、親と子どもの気持ちがとても自然に寄りそい合った。というお話です。そのときのいろいろの思い出は、子どもが成人したときも、親にも子どもにも心の中に、はっきりと残っていたそうです。それが人間の絆というものかもしれない。とまで言われています。

このお家では、子どもに食べるものを与えるのと同じ感覚で、本を読んであげて、生活の中に本があることはごく自然なことだったようです。絵本は、子どもが生まれてはじめて出合う“本”なんですよね!!

そして、やはりそこには  
 「おもしろい」「楽しい」  
 「好き」「心地よい」がついて  
 きますね~!!

今回は、“本好きの子どもに育てるには??を探っていきましょう!!



## 少年団からのお知らせ

### 「お楽しみ会」のお知らせ

開催日:平成26年12月13日(土)

※雨天決行

場所:ジョイプラザ(2ゲームします)

集合時間:9時30分

集合場所:C・D棟間



## 小学校PTAからのお知らせ

長かった2学期も終わりが近づき、いよいよ今年も残すところわずかとなりました。

冬休み中も子ども達が安全に過ごせまようみなさんご協力をお願いします。



ご意見、ご要望などをどしどしお書きください。(ご記名をお願いします)

